

… 雨でも休まず：第151・152回 …

「若柳・嵐山の森」から

◎定例活動：3月5日（第一土曜）森林整備：参加費300円

* 協力協約D地区／3月末が契約期限、追い込み。

◎定例活動：3月20日（第三土曜）里山交流：参加費500円

* 昼食は、主食のみ持参の事。自分の食器を忘れるな。

* 芽吹きの子節、恒例の梅の木の下での野点。

* 運営会：今後の森づくり、甲州古道イベント、於／桂北公民館

■ 必ず申込：ボランティア保険加入と食材の準備に必要。

* T&F 03-3411-1636、メールもOK。

■ 初参加者：JR相模湖駅前：9時15分集合。

JR高尾発：8時42分、9時02分に乘られたし。

○ 服装：滑らない足下、汚れて良い格好、作業手袋は革製が安全。

○ 持参：保険証写し、作業はきついが、活動を楽しむゆとりと心構え。

… ものの考え方 …

元三重県知事の北川正恭さん（現、早大教授）が「北京で蝶が羽ばたけばNYでハリケーンが起せる」と言いながら地方から行政を改革する運動を起こしている。

カーラジオで聞いた愛知万博担当のトヨタ自動車の専務神尾さんの話を紹介する。「当社は車づくりに就いて幾つかの夢があります。例えば、何万羽と言う鳥の大群でも絶対にぶつからないですね。それなら、絶対にぶつからない車を作ろうと思っています」。トヨタでは、ネジ一本にまでこんな発想を取り入れて事業に取り組んでいるから米国のビックスリーに迫ろうという偉大な事業が可能になった。

地球の森林総面積は、38億ヘクタールで毎年、1千万ヘクタールずつ減っている。簡単な割り算であと何年で地球から森林がなくなるかが出せる。今は微力でも、当会の活動が「地球の森林を救うキッカケ」になっても良いではないか。森の中の喫茶店（ムサビ亭）が繁盛している。そんな発想する森仲間が、この夢を可能にしてくれる。

● 定例活動報告：2月5日（第一土曜日）森林整備に注力

真冬：快晴・無風・極寒。

邦久少年等31名、遅れて数人。

協力協約のD地区も終盤、追い込に入った。少し遅れ気味か。そんな中でWS(ウッドシューター)の実験が飛び込んで来た事もあるが、この辺りの判断もなかなか難しい。

この3年かけて緊急間伐4地区が終了するが4月からの森林整備をどうするか。こんな事を相談する事もあって森林保全課の厚沢主査と素材生産に取り組むサトウ草木に森を見てもらった。



4月からの森林整備計画を相談する…園田・厚沢・佐藤。

森林の持続的な経営管理のためにはどうしても木材が売れなければならない。何とかしてこれを売る方法はないか。神奈川県もその途を探しており森林NPOとしてできる事はないか。

昨年10月、小原本陣のそばに新たに郷土史料館として“小原の郷”もできて、ここは甲州街道沿いで交通量も多いからここを活用して県産材＝若柳材を有効活用して広報する方法も考えている。町役場に材の展示をさせて欲しいと交渉も始めている。また、今年はテーマを決めて広報イベントを計画をしておりこの中でも若柳材で家を建てたい人の募集も試してみる。



「ムササビ亭」で一服…厚沢・佐藤・鈴木

森林整備は、D地区の残す3回、追い込みの枝打ちに入っている。プロの佐藤さんに作業状況を採点してもらった。

「ウーム、見事です。何人かプロが入っていますね。プロの手法がアチコチに散見できます」と甘い採点。期限の3月末には検査が受けられるかどうかを厚沢主査に聞いたがOKとの事。但し、雨が降らず順調に行けばの話。

材の空中搬出/WS(ウッドシューター)の搬出実験は、様々の工夫がなされて順調に推移。次回でこの実験は終る。

次の伐採時期の10月頃から再開。

● 定例活動報告：2月20日（第三土曜日）里山交流

天気予報/午前中は曇り、午後は晴れ間が広がるでしょう…、が完全に外れて終日小雨。それでも70人を越す参加者となった。雨が上がるかも知れないと言う思いもあってノンビリしていたが、それらしき気配

もなく朝礼前に大急ぎで雨よけテントを張る。

- ・森林整備班 協力協約の森の枝打ち追い込みに入らなければならないが森は、雨で滑りやすくなっている。木に登るのは止めにして林床整理に終始した。望星高校の学生達の参加は助かった。1日の遅れは検査に影響する。
- ・緑のダム学校 森の中だけでなく都会の小中学校に出掛けて行って森林の大切さを訴えたいと思っていた。川崎市幸区の「幸まちづくり研究会」と協働する事になって南河原中の伊藤PTA会長が参加した。この人も相当の情熱家らしい。生態系調査班は、これに合流して森林の様々なしくみを教えていた。
- ・炭 窯 班 初参加2名を加えて竹の切出しに精を出した。
- ・お花畑班 篠つく小雨のため、雪で荒れ畑を整地する事で終日を過ごした。



間伐材を森から搬出する新しい試みとして開発中のWS（ウッドシューター）の取材に神奈川新聞社と相模経済新聞社が来た。

佐野記者には“取材だけでは良い記事は書けない”と作業も強要した。

“良い記事を書く為には旨いものが一番”とお昼には、鍋奉行が腕を奮った粕汁を大いにサービスした。

林境のおよその図面はあるがこれを森林所有者立ち会でハッキリさせる必要がある。

ここは、鈴木重彦氏と鈴木克枝氏、お二人の所有の森である。雨の降る中、ご息の史比古氏

にも来て頂いてお二人立ち会いの下、林境を確認した。

雨なら雨なりに森は、いろんな事を教えてくれると“雨でも休まず”の考えと体験が身に付いているから雨が降っている事も忘れていた。こんな事も愉快地楽しく感じた。運営会をやるので「ムササビ亭」はお休みと聞いてガッカリした仲間もいた。

活動終了後／運営会

1、FSC認証の進み状況報告：FSC推進チームの篠田・林仲間から以下の報告・提案があった。

イ、先ず、これまでの活動のおさらいは…、。

- 1) FSCとは何ですか？
- 2) 何故、若柳嵐山の森で認証取得を目指すのですか？。
- 3) 申請には何が必要ですか？ …森林簿・施業計画・環境保全計画・利用計画・運営計画
- 4) どんな作業が必要ですか？。

ロ、これまで調べた森林状況図の説明を受けた。

関連植生図、主要な生物種を「若柳・嵐山全域図」詳細に落とし込んだもので、管理地が狭いからこそ丁寧な仕事をしたいと思うFSC推進チームの思いが伝わって来る。

認証後、本にして報告する。



運営会風景

ハ、今後、森林活動をどうするかは「施業計画＝どんな森づくりをするか」による。

*どんな森づくりをするかは、3月5日の第一活動日に相談する。

二、施業計画：施業計画というと難しく感じるから「森づくり計画」と置き換えるとなじみやすいと

林仲間が計画書書式案を作ってくれた。

森林は、多様性とかいいながら、これまでいろんな班ができて行き当たりばったりでは済まなくなっている。ここらでメリハリのある形にすると言う提案だ。森づくり計画ができれば、環境保全計画・利用計画・運営計画は自然と出てくると言う提案である

ホ、情報公開は、F S Cの大切な条件で、月二の活動でこれらの事を話し合う事はできないからMLを使って意見交換のできる準備を進めていると報告した。その上で得た結論は、HPで公開する。

2、小原本陣の森／進み状況



これまでの経過：

2000年6月に小原町の町有林を検討した事がある。土曜日活動を作って欲しいの要望から2002年4月にこの森に入るようにしたが、時期尚早だった事とこの森の入り口に砂防ダムが建設される事になった機に一時撤退という事にした。その後の事は1月・2月号で報告済み。

現状の推移

- ・1月、園田仲間と2人で小原町の幹部3人の方にお会いして双方の意志の確認をした。
- ・2月、小原町内会組長会は、正式に当会と一緒に森に入る事を採択した。
- ・3月、町内会総会で正式に決めるが、その席上で当会との合意の内容を再確認するために園田・石村が出向いて小原町の皆さんと合う事になった。

これに先たちお世話役の小碓(コイカ)さんから詳しい森林簿を頂いた。それによると「小原本陣の森」の所有者は33人いて、10人が不在だが全て連絡がとれる。氏名・電話番号・住所の全てが一覧表になっていた。こんな凄い資料が出て来た事に度肝を抜かれた。森の中に作った今はもうない赤道(畑の中の通路)まで記録されている。4月第一土曜日から活動開始と考えている。

◎ その他の報告

1、桂川・相模川流域協議会

1月31日、流域協議会は森林体験講座を弁天橋キャンプ場で行い、これのお手伝いで藪刈り指導をした。

2、津久井地区行政センター

2月1日、県との協働事業が決まり、事業の刷り合わせのため、主だった森仲間と津久井行政センターを訪問した。小林所長始め、林務関係の方々とうちあわせた。



桂川・相模川流域協議会／於弁天橋

3、間伐材200本入手

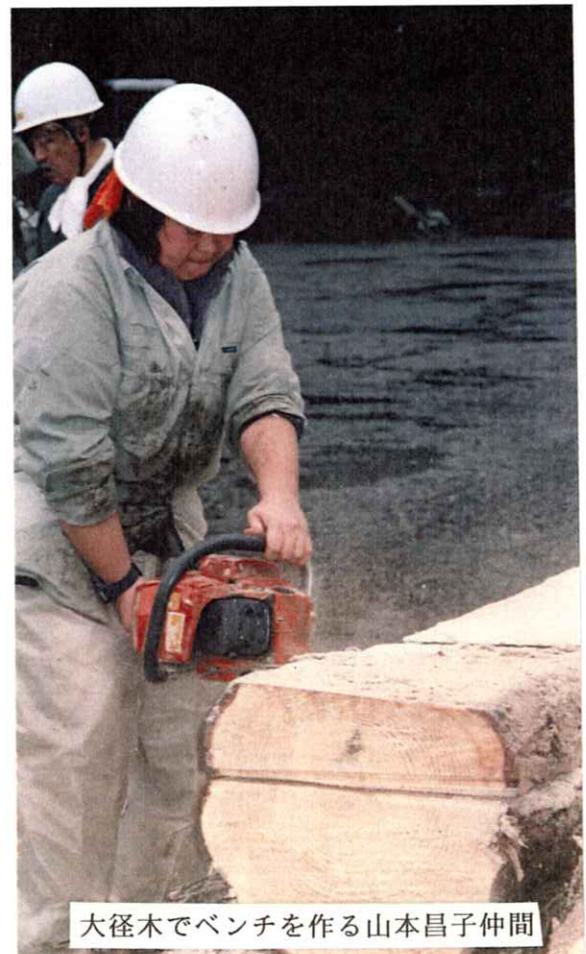
津久井青根の砂防ダム現場から出る径40～20cmの杉・檜間伐材を4トラック6台分、200本を入手した。芯の黒いものが多く材として価値が低いというが建具組合によると黒ところを選んで建具をつくる事もあり価値が低いという訳ではない。むしろ、何に使うか、どう使うかの問題だと言う。

丈夫だとその事では黒い方が良い。また、黒いところを選んで風呂を作ってみたら艶と模様でなかなかの出来でお客様に喜ばれると言う。

芯が黒いのは、湿気の多い沢筋の木だそうで赤みの木より重く強度が強いから根太などに使う。全く以って何が良いか、森林は一筋縄ではない。

4、シュタイナー学園

2月16日、市民社会チャレンジ基金で知り合ったシュタイナー学園は、子供の個性を延ばす12年生一貫教育を目指す新しい形の教育形態で高校を藤野町に作る準備を進めている。自然教育について当会と交流したいという事で本部のある三鷹で話し合った。6才児から14才児を持つお母さんたちは、ひたむきに、只、ひたむきに真実の教育法を実践しようとしているように見えた。当会の森林活動にたいする思いと共通点があり今後、交流を進める。



大径木でベンチを作る山本昌子仲間

男／64才：作業員4名でそれぞれ分かれて間伐材の採倒作業に従事していた。

作業員A（被災者）が間伐木を採倒したところ、かかり木となった。作業員Aはかかり木を放置し、かかり木の危険区域で次の立木の伐倒作業をおこなっていたところ、かかり木状態になっていた伐倒木（径28、高16m）が突然暴れだし、被災者に激突したものと推定される。

与瀬神社の由来

与瀬神社は、「与瀬の権現様」と呼ばれ、与瀬の人達ばかりでなく近郷近在や関東一円にその名を馳せ親しまれてきました。古書によると「蔵王社、村中の鎮守なり。昔相模川の北岸にありし小社を遷座せしむ。以来威厳新たにして著しく荘厳なり。この蔵王権現は大和の国より遷座せしむ」と記されています。

蔵王権現は役（えん）の行者が仏の修行する時の姿で、奈良の蔵王社が遷座したので与瀬権現と言います。日本には、神仏混淆と言うわが国特有の神の信仰と仏教の信仰とが融合した、奈良時代から始まった由緒があります。神仏が混合していた時代には、金峰山慈眼寺が別当寺として代々祭事を司っていました。金峰山は大和の国、吉野蔵王権現の山号です。

千年以上続いた神仏混淆も明治時代の初年に政府の祭政一致の方針により神仏分離が行われ、神社とお寺の融合が廃止されました。

与瀬神社は、この神仏分離により、祭神が日本武尊になり、以来三代の宮司が祭事を司っています。古書に「幣殿、拝殿、瑞籬などをつらね、丹青修飾厳然たる霊あり」と書かれているように格式のある荘厳で見事な社殿で北相十三社としてその名を残しています。しかし、明治37年2月不慮の火災のため消失しました。

その後、困難を克服して大正3年に本殿、昭和24年に拝殿が再建され、荘厳な神域をなしています。現在の社殿は、本殿、拝殿、絵馬殿、手水舎、髓神門です。境内社として平安神社、天神社、熊野神社、客神社、稲荷神社、御霊社、水天宮、厄神社があります。春季大災の4月13日は、今でも多くの善男善女が参詣し、御輿の渡御、稚児行列などで賑わいます。

（文責 中里）

○ 3月 5日（第1土曜） 森林整備
協力協約追い込み／枝打ちに集中
終了後、運営会

○ 3月20日（第3日曜） 里山交流
野点もやる。

○ 3月25日（第4土曜） 甲州古道

モットー／休まず・無理せず、楽しく、ポチポチと…
そして、沢山のご意見と参加下さい。

名 称／さがみ湖・森づくりの会

NPO法人緑のダム北相模／森林部会

事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9

T&F／03-3411-1746

発行者／石村黄仁

○協働 セブーンイレブンみどりの基金／NPO緑のダム北相模の森林保全活動は、左記
団体 神奈川県（津久井森林林務課・土地水資源対策課）の団体との協働事業として実施しています。

・HP：<http://www008.upp.net.jp/kitasagami>

* 支援団体 WWF ジャパン、WWF 日興インベスターズ基金、損保ジャパン環境財団、イオン財団
日本財団、神奈川社会チャレンジ基金